

を 顧 み て

出 口 孝 吉

本年は三月に全日本ホルスタイン共進会が福島市において開催されたが、十月には県共進会と、全国和牛産肉能力共進会が県下で開かれ、何れも岡山県産牛の声価を高めた。県共進会は県南部に豚コレラ発生のため豚の出品が中止されたので、和牛と乳牛の共進会となった。昨年と同じく県経済連と県酪連の主催で、十月三日から五日まで久世家畜市場で開催されたが、連日天候に恵まれ盛況を呈した。和牛については全国共進会に参加したものも出品され、最近の和牛価格高騰を反映して出品者の意欲も旺盛で逸品が多く、特に種雄牛については、出品月令の関係で全共には参加できないもので極めて優秀なものが認められ会場の注目をあびた。乳牛についても發育、品位のすぐれたものが多く、本県乳牛の改良が地についていることを示した。

査するやり方であるが、今回は長期間にわたって發育や早熟性を調査し比較検討を行ない、肉牛ではそのほかと殺解体して枝肉歩留、肉質なども審査し、真の産肉能力をみることに主眼をおいているので、育成時代から肉用牛の資質を備えなければ優秀な成績をあげることができないわけである。

このような性格をもった共進会は、世界でも初めての試みであり、肉用牛振興が強く叫ばれている時、和牛の主産地である中国地方の産牛を集め、県下でその最終審査が行なわれ、しかも十万人を下らぬ參觀者を集め、盛況のうちに終了したことは、誠に喜びにたえない次第で、出品者並に関係者の御努力、御協力に對し深甚の感謝を表するものである。

開会式は、常陸宮、同妃殿下が御臨席になり、「国民の体位向上に役立つ牛肉をよりましたやすく求められるよう望んでやみません」とごあいさつされた。そのあと宮様は和牛の展示資料を見られてから、体育館横に展示された百頭の出品牛と、遠く九州からも送られてきた参考牛を御覧になったが、生物学御専攻の宮様は専門的なことに興味をもたれて活潑な

畜 産 共 進 会

岡 山 県 畜 産 課 長

質問をなされ、また妃殿下は子牛の頭をなでられ、出品者にも笑顔で話しかけられるなど、非常に興味をもたれた御様子であった。

今回の共進会は、環境のよいグラウンドで開催され設備が整っていたので、好印象を与え、また肉牛も設備のよい県営と畜場でと殺解体され審査も極めてスムーズに行なわれた。

審査の成績は、種牛、肉牛ともに最優秀の総理大臣賞を岡山県が独占し、黒毛和種六点中首位四点、県下総出品二三点のうち一等賞二点を獲得するという優秀な成績を示した。

このように岡山県の和牛の優秀性が証明されたことは、古来干屋牛、新庄牛として名高い本県産の優秀牛の層が極めて厚いことを示すものであり、和牛改良家や指導者が産肉能力の改良の必要性を理解し、新しい考え方を取り入れると共に多年にわたって地道な努力を重ねてきた結果と信ずる。全国的に、いや世界的に減少傾向にある肉用牛の生産を増大することにより、牛肉の供給拡大と農山村の振興をはかることは、最も緊要なことになっているが、県としても肉用牛振興のため大規模草地

造成、野草地の利用促進、畜産公社による繁殖育成センターの経営と肉用牛の貸付事業等を行ない、積極的な生産増強に乗り出している際、この共進会が県内で開催され、しかも岡山牛の優秀性が天下に示されたことは、誠に嬉しいことで、今後の和牛振興に益するところは多大なものがあろう。

家畜の共進会そのものについては、いろいろな意見や批判がある。過去において共進会が畜産の振興に果たした役割は大きなものがあるが、同時に農業の主力にのし上った畜産にとって、生産、流通、経営に問題が極めて大きく、従来の単なる家畜を一堂に集めて審査を行なう畜産共進会の意義なり寄与も自から限度がある。しかし共進会の開催方法を今回のような能力を加味したものに改善すれば、改良の指針が示され、生産改良に及ぼす効果もまた増大するものと信ずる。今回の共進会はその意味で革新的であり、またその効果も大きい。

今後さらにその方法を研究すると共に、最後の目的は常陸宮のおことばにあるように、良質の牛肉を容易に食膳に供給するよう努力しなければならぬ。

乳 牛 用 配 合 飼 料

品良く・もうかる!!	仔牛はこれぞ!!	使って安心!!
酪農1号	雪印 カーフミルク カーフフード	北酪1号 北酪2号
岡山県酪連		岡山県北部酪農校

製造発売元「タネとエサ」の 雪印種苗株式会社

札幌 東京 岡山 盛岡

十一月号目次

畜産共進会を顧みて	出口 孝吉
岡山県の家畜飼養の概況	県畜産課 2
県共入賞牛一覽	4
全共大成功をおさめる	6
酪試	性能調査事業 について 9
鶏試	無窓鶏舎に関する 試験について 13
和試	和牛の放牧と 牛舎の比較 17
酪連だより	19

岡山県の家畜飼養の概況

☆☆

☆☆

(40年度 農林省統
計調査部調査結果)

県畜産課より

1 酪農

岡山県の乳用牛飼養戸数は八、六〇〇戸で前年同月に比べ二・九%減少したが飼養頭数は二万九、八二〇頭で前年同月に比べ九・二%増加した。このため飼養農家一戸当りの頭数は前年同月の三・一頭から〇・三頭増加して三・四頭となった。

乳用牛の飼養者を四十年十一月現在の調査によって、耕作農家、非耕作農家、協業経営その他の事業体の四つの経営形態に分けてみると、耕作農家は飼養戸数で全体の約九九%、飼養頭数で約九七%

を占め、耕作農家以外が占める割合は少ない。

つきに一戸当り飼養頭数では協業経営がもっとも大きく、ついでその他の事業体、非耕作飼養者、最後に耕作農家の順となっている。

さらに同じ十二月現在の調査によって耕作農家の飼養を成畜頭数規模別にその変化をみると、飼養戸数、頭数とも増加減少の分岐点が年々上昇の傾向にあり、飼養規模拡大の進展していることがうかがえる。

2 肉用牛

乳用牛成畜頭数規模別飼養農家数 (耕作農家)

年月	合計	成畜頭数規模									
		なし(子畜のみ)	1頭	2	3	4	5~9	10~14	15以上		
飼養農家数	実数	39.12	8,920	1,060	2,330	2,120	2,030	950	410	13	7
	構成比	40.12	8,540	1,320	1,810	2,100	1,610	790	870	29	10
飼養農家数	構成比	39.12	100.0	11.9	26.1	23.8	22.8	10.6	4.6	0.1	0.1
	構成比	40.12	100.0	15.5	21.2	24.6	18.9	9.2	10.2	0.3	0.1

肉用牛飼養戸数、頭数

	飼養戸数			飼養頭数			1戸当り平均飼養頭数	
	41年2月	40年2月	前年対比	41年2月	40年2月	前年対比	41年2月	40年2月
岡山	44,000	47,920	92.0	62,460	68,760	91.0	1.4	1.4
中国	189,590	220,030	86.2	267,660	305,610	87.6	1.4	1.4
全国	1,162,720	1,434,580	81.0	1,576,900	1,885,810	83.6	1.4	1.3

昭和四十一年二月現在の肉用牛の飼養戸数は前年同月に比較して三・九二〇戸(八%)の減少となり、また飼養頭数は

昭和四十一年二月現在の肉用牛の飼養戸数は前年同月に比較して三・九二〇戸(八%)の減少となり、また飼養頭数は

伸びた飲用牛乳

昭和41年4~6月
牛乳製品調査(統調9月1日発表)

昭和四十一年二月一日現在、県下で搾乳されている乳牛は一万五千二百〇頭で前年同期より一千二百〇頭増加している。その割合は九%増となっている。今年の四月から六月までの間の県内生産量は、三万三千三百三〇

五七で、前年に比べると二千二百五七増加しており、六%増である。生乳の生産増と乳牛の増加率がだいたいに見合っている。

また三カ月間の生乳消費量は一万八千九〇九と前年同期に比べ四%増加している。用途別消費では、飲用牛乳等向けが一万二千二四七で前年に比べ三三%もの伸びを示したが、反対にバター、粉乳などの乳製品等向けは六千二百六七と二五%も大巾に減少している。

飲用牛乳が伸びているが、県内で一人一カ月に何人飲んでいくか概算すれば約一三本、四年前は約六本であったが、一日一本にはほど遠い。

用途別生乳消費量(4~6月)

	41年(t)				前年比(%)			
	飲用牛乳等向	乳製品等向	その他	計	飲用牛乳等向	乳製品等向	その他	計
4月	3,656	2,813	496	6,965	148	71	109	101
5	4,037	2,186	467	6,690	141	62	94	97
6	3,551	1,268	435	5,254	114	140	97	118
計	11,244	6,267	1,398	18,909	133	75	100	104

乳用牛飼養戸数と飼養頭数

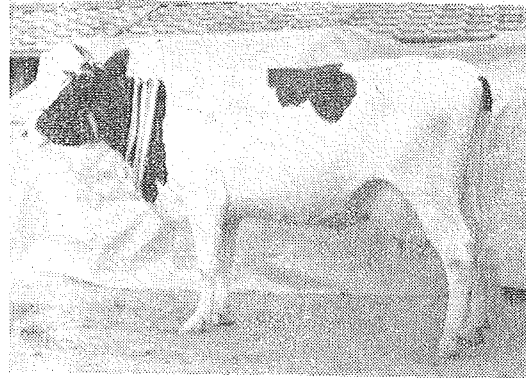
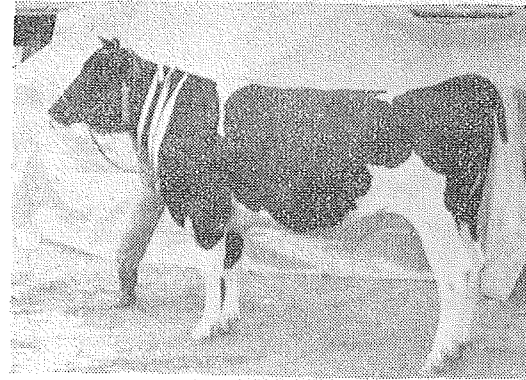
	総飼養戸数	普及率	総頭数	飼養頭数					飼養戸の飼養頭数	前年対比		
				計	2才以上			2才未満		飼養戸数	飼養頭数	
					うち経産牛	小計	搾乳牛					乾乳牛
岡山	40.2	8,860	5.1	27,300	18,220	16,560	13,960	2,600	9,080	3.1	81.0	90.4
	41.2	8,600	5.3	29,820	19,900	17,940	15,240	2,700	9,920	3.4	97.1	109.2
全国	40.2	381,600	6.5	1,288,950	859,400	753,430	633,770	119,660	429,550	3.4		
	41.2	360,730	6.4	1,309,970	884,810	785,640	664,710	120,930	425,160	3.6	94.5	101.6

経営形態別乳用牛飼養頭数

	飼養戸数		飼養頭数			成畜頭数規模別戸数	
	40年12月	総数を100とした割合	40年12月	総数を100とした割合	1戸当り飼養頭数	10頭未満	10頭以上
総数	8,590	100.0	28,100	100.0	3.3	7,196	71
耕作農家	8,540	99.4	27,200	96.5	3.2	7,180	39
非耕作飼養者	3	0.0	40	0.1	13.3	1	2
協業経営	23	0.3	530	1.9	23.0	3	20
その他の事業体	22	0.3	410	1.5	18.6	12	10

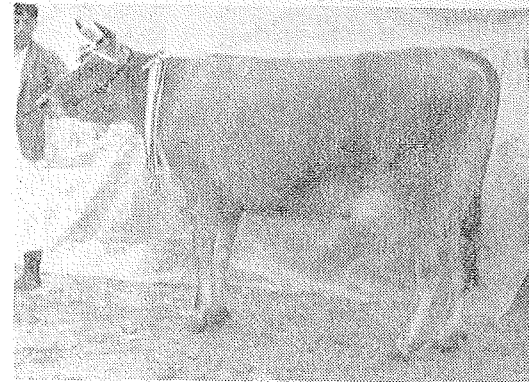
乳用種々牛ホ種未經産区 1等 1席

名号 ジャンセンコパーホローテイレカー
 生年月日 39. 9. 5 (24カ月)
 出品人 津山, 池ヶ原 木梨吉久
 美点= 品位, 資質ともにすぐれ, 發育標準をはるかに上廻る發育をしている。体各部の均称もよく, のびのびしており, 尻および乳器も良好であり鋭角性に富んでいる。



乳用種々牛ホ種経産区 1等 1席

名号 ヘンドリクリーダーコパークインカ
 生年月日 37. 5.12 (4年4カ月)
 出品人 菅田, 鏡野 寺岡とよ
 美点= 品位, 資質ともに良好であって, 乳器とくにその質および乳房の容積, 乳静脈は良く発達しており深みのある立派の牛である。



乳用種々牛ジ種 1等 1席

名号 オカHスマイルスターダスト
 生年月日 34. 5.23 (7年4カ月)
 出品人 真庭, 湯原 内田庄一
 美点= 品位にとみ, 体積がありすぐれている。乳器はとくにすばらしい牛である。

第22回県畜産共進会

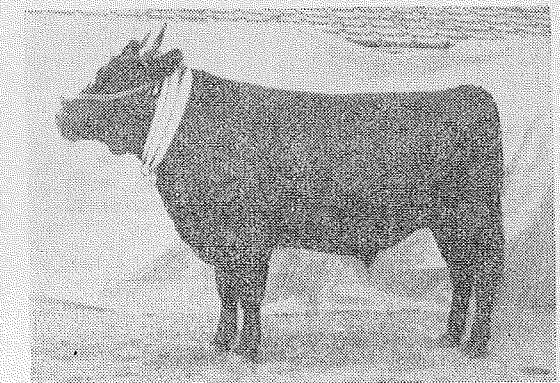
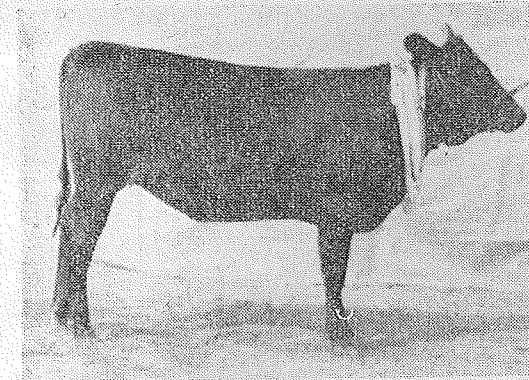
※ ※ ※ ※

※ ※ ※ ※ ※ ※

入賞牛一覽

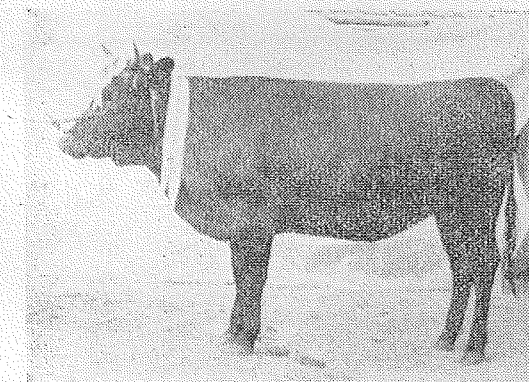
肉用種々牛子牛区 1等 1席

名号 とみ (65積津756)
 生年月日 40.11. 6 (11カ月)
 出品人 菅田, 鏡野 居森 惇
 美点= 發育よく均称もとのっている。背腰の中, 肋腹, 乳徴がまことによく, たいへん早熟性のある牛である。



肉用種々牛種雄牛区 1等 1席

名号 第十一松田 (65積阿117)
 生年月日 39.11. 1 (23カ月)
 出品人 阿哲, 哲西 沖田洋美
 美点= 發育がよく, 体積に富んでいる。中軀とくに背腰, 体の深みがありしかも資質, 乳徴も立派で, 近年まれにみる充実した牛であり雄相があつて堂々たる牛である。



肉用種々牛成雌牛 1等 1席

名号 きやま二 (65積真627)
 生年月日 40. 3.10 (19カ月)
 出品人 真庭, 勝山 堀 重三郎
 美点= 發育がよく, 均称がすぐれている。体積があつて, 背腰, 肋腹, 資質がたいへんすぐれ, 雌としての優美さがある。

今回(第二回)の畜産共進会は、開催前月の九月に、奥南で豚コレラが発生したため、急遽種豚の部は取り止めとなった。また、岡山市で開かれる第一回全国和牛産肉能力共進会をすぐあとにひかえていたため、経費、人員などの点から極めておとなしい共進会となり、お祭り気分はなかつたが、幸い好天に恵れ地元協賛も極めてよく充実した会であった。久世町の経済連久世家畜市場には、熱心な関係者が多数つめかけて、畜産共進会自体の目的とその効果は、十分にあげられ得たと思われる。

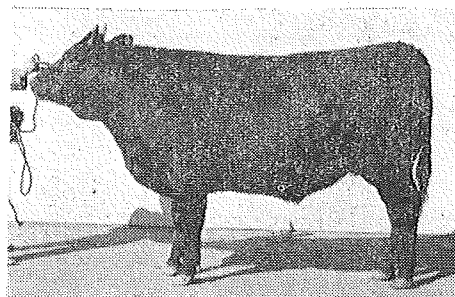
それはともかく、肉用牛価格の値上りの折から、今回の共進会は和牛の部では力が入っており、出品牛全て名牛揃いで、特に種雄牛区では、今までに現われたことのない逸品と審査員をびっくりさせる出品があつた。乳用牛区でも優れたものが出品され、育成技術が進み發育の極めてよいものが多かった。出品者もだいたい固定しているようであり、これは、最近の酪農が大規模化、専門化してきているためであろう。

また、これら出品牛の父牛を調べてみると、肉用牛では、①新沢、一〇頭、②幸福一、九頭、③千代田、七頭、④日笠三、五頭、⑤仙隆、第二千栄、中昭、四頭である。乳用牛では、①ベッシー・リダー、五頭、②ポシュロ・フェムコ・ロッキー・ローマー、四頭、③ジェネラル・サー・ロータル・マラソン、三頭である。

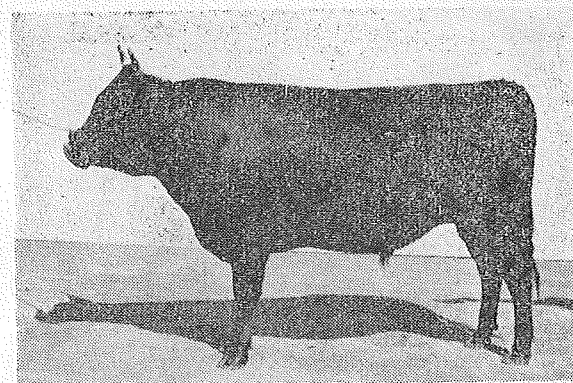


西勇号のロースの脂肪の交雑、60万円のロースである

去勢肉牛区で総理大臣賞を獲得した
総社の真賀里さん出品の西勇号



グランドチャンピオンに
りなりボン二つを飾って
いる第十九横氏号



種牛若牛黒毛和種雄の区で出品
し、総理大臣賞を受賞、グラン
ドチャンピオンになった第十九
横氏号



子牛の背をやさしくなせる
常陸宮ご夫妻

第1回全国和牛産肉能力共進会

大成功をおさめる

完全なる肉用牛への転換がやかましく叫ばれているとき、その和牛の経済性、能力を追求することに重点を置いた第1回全国和牛産肉能力共進会が岡山市において開催された。和牛の生産地であ

る京都以西の1府6県が出品した605頭を、第1次、第2次審査で100頭にしぼり、また改良育種のため飼養環境等の問題点を解明するため開期10カ月に及ぶ世界でも例のない一大プロジェクトで

あった。また、10月14日の開会式には、常陸宮ご夫妻を招き、我国食肉にたずさわる関係者一同の意気込みをお見せし、宮様から

言葉があった。特に岡山県は開催県であった面目にかけて、すばらしい成績をおさめ、かつての伝統がいち早く肉牛タイプの和牛を作り上げていた。

第一回全国和牛産肉能力 共進会の結果から

岡山県和牛試験場長

渡辺 滋樹

今回、岡山市で開催された全国和牛産肉能力共進会(以下全共という)の特色は、体型、資質などの表現型を主体とした従来のものと異なり、肉に重きをおいた今後の和牛改良の方向を示唆する画期的なもので、開催期間も十一月という長い期間をかけて行ない、その間における発育、体型、飼養管理、産肉性、遺伝状況及び経済性などを調査し、その能力の優れたものを最終的に選抜し、岡山会場に集めて審判が下された。なかでも、肉牛の大部分はと殺して厳密なる審査が行われた。

ましい努力の結晶であることはいうまでもない。この意義ある共進会が、単に一過性のお祭りさわぎに終わることなく、今日のこの栄光が、明日の和牛振興への原動力となるよう、百尺竿頭更に一步の厳しい現実を、卒直に反省し検討してみる必要がある。

一、飼養環境が産肉能力を支配する

和牛の体型、資質、能力を支配するのは、改良の歴史と血統、遺伝などの先天的ファクターの他に、飼養管理などの

後天的環境の良否が大きく左右することは既に御承知のとおりである。そのあらわれが、今回岡山牛の出品の成績に見られたと思う。即ち共進会の開始時と最終審査時との間に牛個体の環境の良否により、体型、資質、増体などに著しい有位置が見られたものもあり、その結果がそのまま優劣を決定づけられたように感じ、古語にいう飼七分が如何に重要であるかを感じさせられた。

岡山牛の特質は、体型(肋腹、背腰、後軀など)資質など骨格の基礎的条件が優れているので、この上に飼養管理を改善して優れた環境で育てれば、今共進会が立証しているように能力の高い立派なものができるはずである。また、良い環境に育てることは、父母の遺伝因子を如何なく表徴するとともに、子孫にもその良い形質を継承(環境遺伝)するのである。

要するに、この全共が教えてくれたものの一つは、前述のとおり形質の優れた岡山牛は、飼養管理技術の向上と経営改善などの良い環境で育てることが、能力を一層高めることとなるので明日への大きな命題でもあり、産肉性を期待される今日、農家所得向上への道でもある。

二、改良の歴史と実績

良牛に環境なしとはいえず、各県からの出品牛は、その改良の過程と歴史から、

牛の繁殖障害の防除に活躍する
武田の動物薬品

新低受胎牛治療剤.....動物用	ウルセリン
新子宮内膜炎治療剤.....動物用	プレナG
合成樹脂製注入器.....動物用	子宮内薬液注入器

武田薬品工業株式会社食品事業部・畜産部

岡山県各畜産試験場より

酪農試験場だより → 9 P
 養鶏試験場だより → 13 P
 和牛試験場だより → 17 P

性能調査対象種雄牛は県人工授精メー
 ンステーションおよび、地域における乳
 用牛改良増殖の基幹施設に繋養されて
 いる種雄牛で、調査地区は集約酪農地域
 内の一市町村を一地区として、種雄牛二

一、事業実施基準

本県乳用牛の経済的生産能力を推進す
 るため、酪農試験場に、第一表のとおり
 優良種雄牛を繋養し、血統、体型のみで
 なく、種雄牛の性能調査をも昭和三十
 八年度より実施し、遺伝能力の把握に努
 め、改良の指針とするために、次のよう
 な基準によって性能調査事業を実施して
 います。
 国および本県の乳用牛の、改良目標は
 第二表のとおりであります。

性能調査事業について

酪農試験場だより

頭につき行います。

二、事業内容

対象種雄牛を交配した雌牛（母牛）お
 よび娘牛各二五頭づつ計五〇頭を選定
 し、泌乳成績および体型、資質その他必
 要な調査を行い、種雄牛の遺伝的能力を
 推定します。

泌乳成績は分娩後六日目より三〇五日
 間行い、乳量、乳脂率、無脂固形分率、
 体重一kg当り乳量等を調べます。

体型資質調査は調査地域内で対象種雄
 牛の交配によって、次の年に分娩が予定
 される雌牛の内から、五〇頭を授精薄な
 どから適宜に選り、分娩後一週間内にそ
 の産子について不良遺伝形質の有無を調
 べます。

三、中間成績結果

(一) 対象種雄牛

対象種雄牛の名号、生年月日、供用開
 始年月日、産地、高等登録審査得点は第
 三表のとおりです。

(二) 泌乳成績

昭和四十一年度まで終了した雌牛一頭
 平均値は第四表のとおりです。
 第四表で見ると、成牛型三〇五日、三
 回搾乳換算で、成績優秀なものは次の
 とおりです。

総乳量では、
 ウオーカー プロスペクト。
 サイロメオ ヘンドリック テッチェ。
 第二八 パブスト グローリー。

第1表 出品牛県別入賞点数

区 分	種 牛 の 部			肉 牛 の 部			計		
	1等	2等	計	1等	2等	計	1等	2等	合計
兵 庫 県	2	2	4	1	2	3	3	4	7
鳥 取 県	7	1	8	1	0	1	8	1	9
島 根 県	2	2	4	1	2	3	3	4	7
岡 山 県	8	1	9	7	1	8	15	2	17
広 島 県	6	0	6	2	1	3	8	1	9
山 口 県	5	1	6	3	4	7	8	5	13
計	30	7	37	15	10	25	45	17	62

(注) 山口県の種牛の部の入賞は全て無角和種の区での入賞である。

第2表 県別1等1席入賞点数

区 分	兵 庫 県	鳥 取 県	島 根 県	岡 山 県	広 島 県	山 口 県	計
種 牛 の 部	—	—	—	2	1	3	6
肉 牛 の 部	—	—	—	2	—	1	3
計	—	—	—	4	1	4	9

(注) 山口県の種牛の部の入賞は無角和種の区での入賞である。

おのおの特色ある経済形質なり能力を有
 し、今後の和牛改良に興味ある事実とし
 て観察した。即ち牛個体の發育、熱性、
 肉質などの他に、無角和種に見られる所
 謂ミートタイプなど、長い改良の歴史か
 ら培かれたこれらの能力は偶然でない
 ことを今更ながら感じざるを得ない。
 私どもはこの全共を反省して考えさせ
 られたことは、岡山牛の改良のためには
 長い年月と計画を必要とするが、美点は
 これを伸ばすとしても、欠点を補完するた
 めの施策は鎖國的なものでなく、国境を
 越えた大きな立場から（例えば精液の交
 流）検討していく必要がある。産肉能
 力向上が前提となるからなおさらであ
 る。

三、産肉能力齊一化の促進

全共で獲た岡山牛の制覇は改良の歴史
 から偶然ではないが、和牛全般を通じて
 言えることは、今日までの飼育目的が農
 用牛のため、産肉能力の整一化について
 は等閑視されてきたものである。つまり
 牛個体の産肉能力に優劣があり固定化さ
 れていないのである。全共岡山会場に出
 品されたものは、多数の中から選抜され
 てきただけに、能力の高いものとして選
 賞されたのであるが、和牛全般の牛が整
 一化して能力の高い素質があるというこ
 とは言えない。従って産肉能力の整一化

のための改良は今後特に急を要し、且つ
 重要な問題である。
 岡山会場に出品された優良牛について
 は、数値的な経済性については後日明確
 にせられるところであるが、少なくとも
 会場で学び得た見聞は、私共には大きな示
 唆を与えてくれたのであるが、これらの
 優良牛の形質、能力発揚にもたらした
 た誘因は個々に分析し検討し、和牛全般
 の能力向上と整一化にたゆまない前進を
 続けていく必要がある。

四、和牛産肉能力の位置づけ

前述のとおり、産肉能力の整一化は別
 として、表現の型は審査標準の鏡に照し
 て理想型に改良していくこととなるが、
 特に、今回全共に見る増体成績及び肉質
 においては、他の肉専用種の追隨を許さ
 ないまでの記録を得、立証されたのであ
 る。そこで和牛の産肉性の尺度は一応解
 明されたのであるが、今後の課題として
 は、飼養管理の技術と経済性などの問題
 点を追及し、形質の改良と併せて改善し
 ていく必要がある。



不良遺伝型質とは、長期在胎、軟骨發
 育不全、脳水腫、曲繫、無毛、盲目、赤
 毛、アルビノ等です。

本事業は昭和三十八年度より開始し、
 昭和四〇年度までに種雄牛一二頭（内終
 了八頭、継続四頭）を行い、四十一年度
 より新規に六頭を実施中です。
 昭和四十一年度までの調査地区は、旭
 東地区、美星地区、津山地区でしたが、
 四十一年度は、津山地区、美作地区、勝
 山地区において実施しています。
 実施機構は、図1のとおりです。

娘牛に現われた体型資質を簡単に挙げると次のとおりです。

(イ) ウォーカー プロスペクト アスター

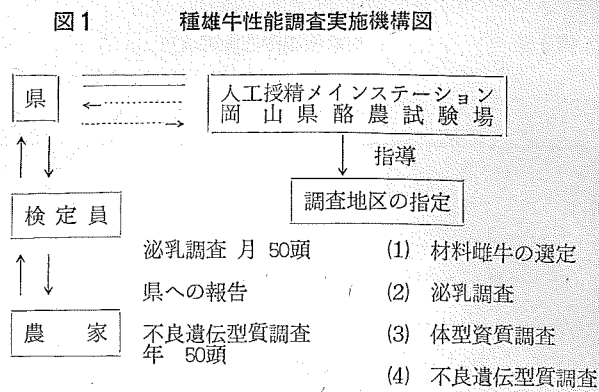
品位、資質良好で胸腹広く、深みもあり尻の形状、乳器も良好で、肢蹄も良い。

(ロ) 第一五 エンパイヤー ウォーカー ロベル

品位、均称良く特に中軀は優れている。皮膚は弾力とゆとりがあり、乳器の形状も良好である。

(ハ) 第四カーネーション ホームステッド

(三) 体型、資質調査



ドグレース

肋腹良く充実し、資質も良好である。体積に富むも後軀の充実やや乏しい。

(ニ) コマンダー プライド ウォーカー ミソノ

品位に富み、資質良好、全般に前胸、肋腹の充実やや乏しいが、乳房の質と容積は良好である。

(ホ) サー ロメオ ヘンドリック テッチェ

資質良好、体積に富み、特に中軀の充実が優れている。

乳器の付着は良好である。

(ハ) 第二八 パブスト グローリー

品位、資質良好で、特に背線強直で、胸伸び良く、後軀は充実し、均称は良いが、肩部に難点がある。

(ト) ベッシー リーダー

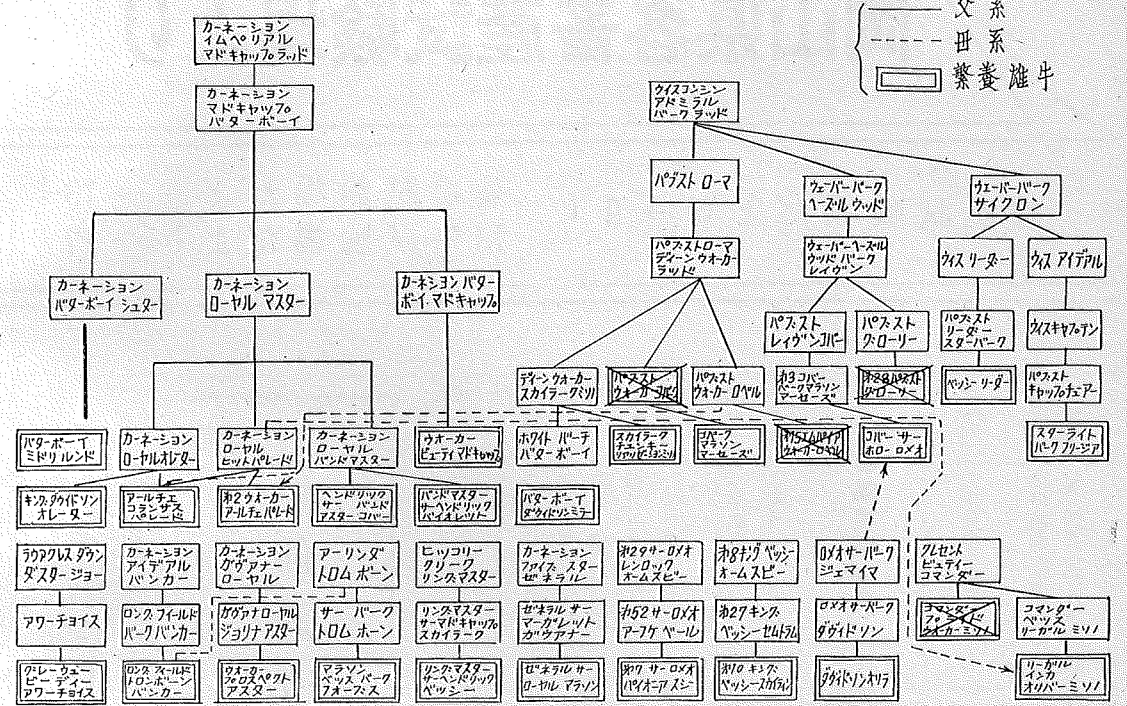
品位、体各部の均称良好、特に尻の形状は良好である。

やや鋭角性に乏しいが、乳器の付着、形状は良い。

以上の如く、全般に母の遺伝力より父の遺伝力の方が、表面に表われている。以上調査終了の八頭について報告致しましたが、今後調査が終了次第各種種雄牛の結果を報告し皆様の参考に供したいと思います。

(坂尾技師)

表一 岡山県ホルスタイン種雄牛系統図並びに対象種雄牛位置



表二 乳牛の現況及び改良目標

種類	区分	全 国						岡 山					
		乳量	乳脂率	無脂固形分	脂分間隔	体高	体重	乳量	乳脂率	無脂固形分	脂分間隔	体高	体重
ホルスタイン	現況	4,100	3.4	8.15	16	130	500	4,200	3.4	8.15	16	133	450~500
	目標	5,400	3.4	8.50	14	135	550	5,300	3.4	8.50	14	135	550~600
ジャージー	現況	2,400	5.0	8.70	16	117	350	2,000	5.0	8.70	16	117	330~350
	目標	3,300	5.0	8.70	14	122	420	3,400	5.0	7.70	14	122	400~450

総乳脂量では、ウォーカー プロスペクト アスター、サー ロメオ ヘンドリック テッチェ、第二八 パブスト グローリー。

乳脂率では、コマンダー プライド ウォーカー ミソノ、ベッシー リーダー。

無脂固形分率では、ウォーカー プロスペクト アスター、コマンダー プライド ウォーカー ミソノ。

体重1kg当り換算乳量では、ウォーカー プロスペクト アスター。

第二八 パブスト グローリー。

注 第一五 エンパイヤー ウォーカー ロベル は母牛の頭数不足で、種雄牛指数(ブルインデックス)が算出できなかった。

種雄牛指数の出しかたは、母娘比較と同期比較の二とおりがあり、昭和四十年までは母娘比較で行われました。この方法は、娘牛の環境の偏りを除き、正確度では良いが、母牛、娘牛を集めたり、年令、産次について実施できないなどの不利があります。昭和四十一年度よりは、同期比較の方法になりました。この方法は多数の標本が一度に取れ、正確度も多数のものを比較するため良いといわれています。

種雄牛指数を示せば第五表のとおりです。

表三 対象種雄牛名

名	号	略号	生月	生年	生年	生年	生年	産地	得点	備考			
ウォーカー	プロスペクト	アスター	WP	29	2	18	30	7	3	北海道溝口牧場	82.5	名譽高等登録牛 終了牛	
第15	エンパイア	ウォーカー	ロベル	15E	29	7	28	30	11	29	86.5	廃用 終了牛	
第4	カーネーション	ホームステッド	グレース	4C	32	11	16	34	6	15	81.6	廃用 終了牛	
	リングマスター	サー	ヘンドリック	ベッシー	RM	34	1	31	35	7	21	84.7	終了牛
	サー	ロメオ	ヘンドリック	テッチェ	SR	34	6	17	35	11	83.5	廃用 終了牛	
第28	パブスト	グローリー		28P	33	10	23				未受検	廃用 終了牛	
	コマンダー	プライド	ウォーカー	ミソノ	CP	33	9	26	35	6	20	83.6	廃用 終了牛
	ベッシー	リーダー		BR	34	9	30	36	4	17	87.0	終了牛	
	コパーク	マラソン	マーセーズ	CM	35	2	7	37	6	22	86.5	継続牛	
	アールチェ	コランサス	パレード	AC	36	2	7	37	6	11	86.0	継続牛	
	マラソン	ベッスパーク	フォーブス	MB	35	11	7	37	3	21	83.6	継続牛	
	ジェネラル	サー	ロータル	マラソン	GS	35	9	9	37	9	13	未受検	継続牛
第7	サーロメオ	パイオニア	スシー	7S	36	7	7	37	12	24	86.0	新規牛	
第10	キング	ベッシー	スカイライン	10K	36	7	16	37	12	24	84.8	新規牛	
	ヘンドリック	バンドマスター	コパー	HB	36	2	8	37	6	11	82.6	新規牛	
	キング	ダヴィッドソン	オレーター	KO	37	2	10	38	6	20	未受検	新規牛	
第2	ウォーカー	アールチェ	パレード	2W	37	6	17	38	11	18	未受検	新規牛	
	スカイラー	チェンキー	リアリゼーション	MSC	37	5	25	37	5	25	未受検	新規牛	

雌牛1頭平均泌乳成績 (D娘牛, M母牛)

種雄 牛名	調査 雌牛頭 数	実 量				成年型305日3回搾乳換算				平均体重1kg 当り3.5日3 回搾乳3.4% (5.6%)換算乳量
		搾乳 日数	乳量 Kg	乳脂量 Kg	乳脂率 %	乳量 Kg	乳脂量 Kg	乳脂率 %	無脂固形分率 %	
ウォーカー プロスペクト アスター	D-20	301	5,242.8	180.9	3.45	6,144.4	212.5	3.45	8.27	10.7
	M-8	290	5,349.4	186.6	3.49	5,710.4	199.1	3.49	8.18	10.4
第15 エンパイアー ウォーカー ロベル	D-15	301	5,858.5	205.2	3.50	6,587.4	230.6	3.50	8.44	11.6
	M-7	395	5,792.2	199.6	3.45	6,391.0	219.5	3.45	8.57	10.7
第4 カネーションホームス テッドグ レース	D-18	297	4,606.8	160.0	3.39	6,215.8	211.5	3.39	8.19	10.0
	M-10	295	5,367.8	181.0	3.39	6,239.1	210.9	3.39	8.33	10.9
コマンダー プライド ウォーカー ミ ソノ	D-16	295	4,435.2	158.2	3.57	6,043.1	215.4	3.57	8.38	10.6
	M-11	298	6,294.4	215.7	3.43	7,272.3	249.6	3.43	8.18	12.0
リングマスター サー ヘンドリック ベッシー	D-27	298	4,680.4	160.7	3.43	6,321.5	223.7	3.43	8.38	10.1
	M-14	295	5,831.6	206.2	3.54	6,341.9	224.7	3.54	8.30	11.3
サー ロメオ ヘンドリック テッチェ	D-19	298	4,916.0	172.3	3.50	6,411.8	226.4	3.50	8.40	10.5
	M-8	298	5,561.6	194.0	3.49	5,998.6	209.3	3.49	8.52	11.0
第28 パプスト グローリー	D-26	291	4,965.7	169.7	3.42	6,689.5	228.4	3.42	8.41	10.6
	M-11	299	5,696.6	193.3	3.39	6,018.1	204.0	3.39	8.45	10.2
ベッシー リーダー	D-27	291	4,582.3	160.0	3.49	6,311.4	220.7	3.49	8.49	10.2
	M-9	289	6,032.5	208.2	3.45	6,598.1	228.2	3.45	8.41	11.4
コバーク マラソン マーセーツ	D-9	293	4,450.6	154.5	3.47	5,941.9	205.9	3.47	8.37	10.0
	M-5	305	6,173.2	208.0	3.37	6,304.1	212.3	3.37	8.27	11.8
アールチェ コランサス パレード	D-1	297	6,956.2	235.4	3.38	7,377.1	249.6	3.38	8.31	14.1
	M-1	297	6,956.2	235.4	3.38	7,377.1	249.6	3.38	8.31	14.1
マラソン ベースパーク ホープス	D-1	270	5,521.9	190.2	3.44	7,752.7	269.0	3.44	8.15	11.2
	M-1	279	4,765.2	166.2	3.49	5,303.6	185.2	3.49	8.17	9.9
母娘平均		296	5,118.8	178.4	3.49	6,379.7	220.8	3.45	8.31	10.9

第5表 対象種雄牛 ブルインデックス

種雄牛名	乳量	乳脂量	乳脂率	無脂固形分率	1kg当り換算乳量
ウォーカー プロスペクト アスター	Kg 7,247.7	Kg 247.6	% 3.37	% 8.49	Kg 11.5
第4 カーネーション ホームステッド グ レース	6,333.1	222.0	3.45	8.03	9.1
コマンダー プライド ウォーカー ミソノ	3,921.3	152.4	3.73	8.71	9.5
リングマスター サー ヘンドック ベッシー	6,338.9	219.2	3.23	8.47	8.5
サー ロメオ ヘンドリック ベッチェ	7,206.1	255.0	3.47	8.07	9.1
第28 パプスト グローリー	7,051.1	269.6	3.51	8.23	11.7
ベッシー リーダー	5,806.3	213.3	3.53	8.47	8.5

養鶏試験場だより

無窓鶏舎に関する試験について

はしがき

無窓鶏舎という名称は、米用語の「インドウレス・ハウス」の訳語であるが、単に窓がないだけの鶏舎ではない。この鶏舎は、鶏のもつ経済能力を最高に發揮させるのに都合の悪い環境をとり除いて、都合の良い環境を人為的に作りだそうとする考えから生まれたもの、正しくは環境制御鶏舎と呼ぶべきであろう。

いいかえると、この鶏舎は、すべての窓を閉鎖して自然光線をさえぎり、周囲の壁には断熱材を施して、外界との熱交流を遮断してしまう。その代わり、必要とする光線は人工光線とし、入気・排

気は扇風機を用いて強制的におこなうものである。

この鶏舎の主な特徴を挙げると次のとおりである。

- (1) 暑さ寒さが緩和される。
- (2) 環境にあわせた換気ができる。
- (3) 生理になかった理想的な光線管理ができる。
- (4) 比較的多くの羽数を収容できる。
- (5) 施設費・維持費が高つく。
- (6) 高度な管理技術を要する。

さて、この鶏舎のおこりは、十年ほど前から、主として米国内で研究開発されたもので、生理学や飼料学などの進歩、スチロール・ガラスウール、合成板等の安価な断熱材、高能力の換気扇の出現などあいまって、実用的段階にまで研究が

進んでいる。本家の米国内においては、気候の比較的冷涼な北部に多く採用されているが、普及度はまだまだ低い。しかし、今後発展の可能性は大きいと考えられている。わが国においても、一部の専業養鶏家や種鶏場での方式をとり入れていた例もでてきているが、米国内式そのままでは日本の気象条件にマッチしているかどうかはなほ疑問であり、なおかつわが国でのこの種の試験例は数少ないので、非常に危険性をはらんでいるといえよう。

このような状況から当場でもこの鶏舎に関する試験の必要性を認めて昭和三十八年度の研究テーマの中にとりあげた。試験に用いた無窓鶏舎は、既存の木造種鶏舎の一部を改造してこれにあて、開放型鶏舎との比較試験をおこなった。第1次試験では、夏季に産卵鶏のケージ管理についておこない、その産卵状況や飼料効率などについて調査し、ついで第2次試験として冬季に種鶏の平飼管理について、主として産卵・受精・ふ化等におよぼす影響について検討したので紹介する。

一、産卵鶏の

ケージ管理について

試験の方法

試験の区分は、面積約二四㎡(六・三m×三・八m)の無窓鶏舎を試験区とし、鋸歯型の開放型ケージ鶏舎を対照区とした。試験に供した鶏は、昭和三十七年春に当場でふ化した単冠白色レグホーン種雌で、これをそれぞれ三〇羽ずつ単飼ケージに収容した。給与した飼料は、粗蛋白質一七・六二%養分総量六四・七二%で、アルファルファミール・ビタミン剤・ミネラル剤などを十分配合したもので粉餌で給与した。光線管理は、試験区については開始から九月一日まで日長時間に合わせて点灯をおこない、以後は両区とも日長時間が一四時間となるよう点灯し、同じ条件になるようにした。

成績の概要

1、舎内の温度と湿度

両鶏舎の温度と湿度は表一のとおりで、最高気温は各期間を通じて試験区の方が二度から三度低く、最低気温は逆に二度から三度高い。湿度については、試験区の方がや、高くなっており、この試験に供した無窓鶏舎の一つの問題点と考えられる。

2、産卵率

産卵率は表二に示すように、試験区

表-4 飼料摂取量 (1羽1日平均g)

期別	1	2	3	4	5	6	平均	飼料要求率
対照区	99	89	96	104	107	113	101	3.05
試験区	87	88	101	104	113	116	103	3.24

表-5 体重 (1羽平均g)

期別	1	2	4	6	8	10	試験終了時
対照区	1,769	1,639	1,663	1,743	1,792	1,815	1,857
試験区	1,730	1,622	1,598	1,797	1,862	1,911	1,873

表-6 鶏舎内温度

	対照区 試験区	期間平均					
		1 1.28~ 2.10	2 2.11~ 2.24	3 2.25~ 3.9	4 3.10~ 3.23	5 3.24~ 4.6	6 4.7~ 4.20
平均最高気温 °C	対照区 11.7 試験区 8.8	8.7 12.4	10.8 14.6	12.7 15.6	19.1 20.0	22.8 23.8	13.8 16.3
平均最低気温 °C	対照区 6.2 試験区 2.5	1.3 4.3	2.8 5.2	2.8 5.8	9.7 11.3	14.3 15.9	5.5 8.1
日較差 °C	対照区 5.5 試験区 6.3	7.4 8.1	8.0 9.4	9.9 9.8	9.4 8.7	8.5 7.9	8.3 8.2
湿度 (%)	対照区 74.8 試験区 52.9	56.4 75.1	52.9 71.6	70.6 66.6	56.2 65.7	58.5 73.1	57.9 71.2

表-7 産卵率 (%)

	1	2	3	4	5	6	期間平均
対照区	79.5	80.0	76.6	79.5	78.8	80.6	79.1
試験区	76.5	82.2	78.6	76.7	71.4	78.7	77.4

表-8 卵重量 (1個平均g)

	1	2	3	4	5	6	期間平均
対照区	53.4	54.1	54.5	54.4	54.8	54.4	54.3
試験区	52.2	52.7	54.3	53.7	53.5	53.8	53.4

表-9 飼料摂取量 (1羽1日当りg)

	1	2	3	4	5	6	期間平均	飼料要求率
対照区	103	123	122	124	105	105	113.7	2.87
試験区	114	124	121	116	105	105	114.2	2.98

一日一羽あたりの飼料摂取量は、表1-4のとおりである。産卵率の低かった第一期・第二期は同じ原因で摂取量も少ない。第三期以後は、各期とも試験区の方が多く、全期間平均でもおよそ2g多く摂取した。

一般的には、産卵率が高い場合ほど、摂取量が多くなるのであるが、この場合は逆の結果となった。

飼料要求率は、試験区が○・九だけ高い。

5、体重の変化

体重について期間中七回にわたって調査し、表1-5に示すとおりであった。季節的に悪条件であったため、四週目までは両区とも開始時よりも減少しているが、六週目には完全に回復している。開始時には試験区の方がやや小さかったが、六週以後は逆に、飼料の摂取量が

多く、産卵率の低い試験区の方が大きくなっていく。

二、種鶏の平飼管理について

試験区は「二」の試験で用いた無窓鶏

舎を平飼管理とした区と、普通の種鶏用平飼鶏舎区との二つの区に分けた。

供用鶏は昭和三十八年春ふ化の単冠白色レグホーン種雄五羽、雌七〇羽ずつである。

給与飼料も「二」の試験と同一のものを用い、ホッパーによる不断給与とした。

光線管理は、対照区の開放鶏舎は無点灯とし、試験区の無窓鶏舎は自然日長時間

表-1 温度と湿度

期別	1	2	3	4	5	6	平均
平均最高気温 (°C)	対照区 33.4 試験区 31.6	32.9 30.8	32.0 29.4	27.8 26.0	28.4 25.5	24.8 21.9	29.9 27.5
平均最低気温 (°C)	対照区 23.7 試験区 26.3	23.5 26.0	21.1 23.1	18.8 20.3	15.2 17.9	11.4 14.6	19.0 21.4
日較差 (°C)	対照区 9.7 試験区 5.3	9.4 4.8	10.9 6.3	9.0 5.7	13.2 7.6	13.4 7.3	10.9 6.2
平均湿度 (%)	対照区 62 試験区 71	68 79	75 82	81 81	66 66	79 74	72 76

表-2 産卵率 (%)

期別	1	2	3	4	5	6	平均
対照区	74.1	54.4	43.3	61.3	64.0	74.6	62.0
試験区	54.4	35.9	42.1	65.0	70.0	69.5	56.2

表-3 卵重量 (1個平均g)

期別	1	2	3	4	5	6	平均
対照区	53.0	52.5	53.0	55.8	57.0	56.6	54.8
試験区	55.1	52.7	55.4	58.0	59.1	59.2	57.1

は初期には低くかったが、第三期から回復して対照区におとらぬ結果を得た。第四期・第五期は対照区より高い成績を示し、第五期・第六期には若干劣った。

初期の産卵低下の原因は、試験開始の前日に鶏を移動したためそのストレスによるものとおもわれる。実際には育成期から連続して飼うわけであるから、このような結果にはならないものと判断される。

3、卵重量

一個平均卵重量は、表1-3のとおり、各期間にわたって試験区が大きく、平均して二・三gの差があった。しかし、試験前の卵重量が調査されていないので、無窓鶏舎特有のものかどうかは結論づけられない。

4、飼料摂取量

試験場開場十周年記念

日本養鶏近代化展示講演大会

十一月十七日・十八日

岡山県体育館で開催

岡山県では、養鶏試験場開場十周年記念事業の一環として日本養鶏協会、岡山県養鶏協会の共催による「日本養鶏近代化展示講演大会」を十一月十七・十八日の二日間、岡山市いずみ町の岡山県体育館において開催します。

これは、最近における大羽数飼育の型態にもなつて、解決しなければならぬ諸問題、とくに飼育管理器具、管理技術および保健衛生、流通飼料などの改善が急務とされています。この時にあたり、岡山県養鶏試験場の開場十周年を記念し、関係機関の協力を得て養鶏近代化展示大会および講演会を実施し、養鶏経営技術の改善、向上に資する目的で開催されます。

大会の行事は、講演会が第一日目の十七日に農林省畜産局食肉鶏卵課長、福島量一氏の「鶏卵および鶏肉の流通

と今後の対策」、第二日目の十八日には中央畜産会専門技術職、木村唯一氏の「最近の養鶏経営技術」が講演される。

展示会は、十七・十八日の二日間にわたって機械器具関係、薬品、飼料、雛などが各メーカーによって展示されます。

また、この大会開催期間中は養鶏相談所の開設、鶏卵肉の消費宣伝も併せて行なわれ、このほかにも大会の付帯事業として民間養鶏功労者および岡山県養鶏試験場永年勤続者に対し、感謝状が贈呈されます。また、付帯事業として「岡山県養鶏試験場十周年記念誌」として過去十年間の試験研究成果の一部を養鶏家が活用できるように要約したものが経営指標となるべき事項を登載したものを発行します。

間に合わせた点灯をおこなった。
試験期間は昭和三十九年一月二十八日から四月二十日までの十二週間である。

成績の概要

1、舎内の温度と湿度

鶏舎内の温度と湿度は表16のとおりである。これによると最高気温・最低気温ともに各期間を通して試験区の方が高く、とくに1期と2期の厳寒期の温暖差は産卵率に好影響をおよぼしたと思われる。

また、湿度については雨の多かった第3期を除く各期間において、一五―二〇%も試験区の方が高かった。

2、産卵率

産卵率は表17のとおりで、4期以外は、両区はほぼ同じ成績を示し、全期間平均してわづか一・五%程度試験区が劣った。2期と3期に試験区が対照区よりすぐれたのは、寒さが緩和されたことが大きな原因であろう。

3、卵重量

一個平均卵重量をみると、表18のとおりで、各期間を通じて試験区が小さく、「一」の試験とちよほど逆の結果となった。このことから、卵重については、両区の間で特別に差はないとみるべきであろう。

4、飼料摂取量

一日一羽あたりの飼料摂取量は、表19に示すとおりで、第1期の対照区は試験区に比して一・9g少なく、さらに第3期においては逆に試験区の方が8.9g少なかった。しかし、全期間平均するとほとんど差がなかった。

5、体重の変化

体重について、期間中四回調査した結果表10のとおりで、両区とも雌雄いづれも減少しているが、区間にはほとんど差はみられなかった。

6、受精率とふ化率

受精率は各入卵毎にみて、すべて試験区の方がすぐれ、各期平均して五・八%すぐれていた。

対有精ふ化率についても、入卵第3回目を除いて各期において試験区がすぐれ、各期平均して二・一%すぐれていた。したがって、受精とふ化については、無窓鶏舎管理においては、それによる悪影響はなかつた。対照区よりもすぐれた傾向がみられた。

7、へい死・淘汰

「一」試験においては特別な傾向は認められなかったが、この試験では試験区において、へい死・淘汰ともに多く、この淘汰の中には呼吸器疾患によるものが

若干みられた。

まとめ

無窓鶏舎に関する試験として、まづ産卵鶏のケージ管理について調査し、ついで種鶏の平飼管理について検討した結果次のことがいえる。

- (1) 産卵率は従来の開放型鶏舎に比べて劣る傾向を示したが、その差は僅少であった。
 - (2) 一個卵重量では、両区の間で特別な差は認められなかった。
 - (3) 飼料摂取量は、夏季ケージ管理においては、開放型鶏舎に比べてわづかに多く、冬季平飼管理においてはほとんど差がなかった。
 - (4) 飼料要求率は、開放型鶏舎の方が、わずかにすぐれていた。
 - (5) 体重については、ほとんど差はなかった。
 - (6) 受精率・ふ化率は、開放型鶏舎区よりすぐれていた。
 - (7) 鶏舎内温度は開放型鶏舎よりも夏期は低く、冬期は高い傾向であった。しかし、湿度は常に高かった。
- 以上のことから、無窓鶏舎は開放型鶏舎に比較して劣っているとはいえないが、わが国の気象的条件下、とくに夏期の湿度が高いことは、無窓鶏舎の構造上および換気量の面で十分検討を要する問題と考えられる。

また、無窓鶏舎の施設費・維持費は従来の鶏舎に比較して相当高価に上り得るから、これを補い得るだけの収益を期待しなければならぬ。

そこで今後は、この鶏舎のもつ長所を最大限に生かした、この鶏舎独特の立場から技術体系を究明していく必要がある。

なお、この無窓鶏舎について、岐阜県の後藤ふ卵場において昭和三十九年から四十一年にかけて試験をおこない、次の結果を得ている。

「まづ「試作無窓鶏舎の構造と舎内環境の調節」についておこない、ステコロールとガラスウールで断熱壁をつくり、入気口を天井・側壁に設け、さらに側壁入気口にパッド(水の蒸発熱応用の冷房装置)をとりつけ、換気量も調節可能な試験舎をつくり、環境調査をおこなった結果、最高気温二八度(外気温三五度)、最低気温五度(外気温マイナスイ度)に保つことが出来たという。また「漸減漸増照明下における各種経済形質に関する調査」で、前試験と同一鶏舎を用いて調査した結果、性成熟の育一性と卵重の増大が認められたと報告している。

(古市技師)

参考資料

- 1、後藤悦男 畜産の研究 十八巻十一号
- 2、荒牧孝典ほか 日本万国家禽学会春季大会 講演要旨 一九六六年

和牛試験場だより

和牛の放牧と牛舎の比較

(其の一)

岡山県和牛試験場 渡辺滋樹

和牛を飼うには、三つのコツがある。第一には、エサ代の節約、第二には手間をはぶく、第三には牛への愛情が必要であろう。

第三の愛情は別としても、直接、経営にひびくのは、全生産費の半分以上を占めるエサ代の節約と、四分の一程度を占める手間をどうしてはぶくかが問題である。多頭飼育が可能かどうかのランドコ口も、だいたいこの二点が大きいといえる。

子牛の生産にしても若令肥育にしても、その発育および肥育前期の成長をうながすためには、栄養価の高い良質の草をたくさん食べさせる必要がある。それのために、改良された優良草地へ放牧する方法がもっともよい。放牧は、牛の生理になつた自然条件のなかで育ち、エサ代が節約でき、また草を刈ったり、牛を管理する手間がはぶけ、経営の上で

一石三鳥の効果があるといえる。最近の肉不足の際、これからの和牛の生産は、きわめて急を要するし、生産農家の経済的な飼いは、草地改良を前提とした放牧経営がいちばん重要であると考える。多頭飼育の可能性も生まれてくるのである。

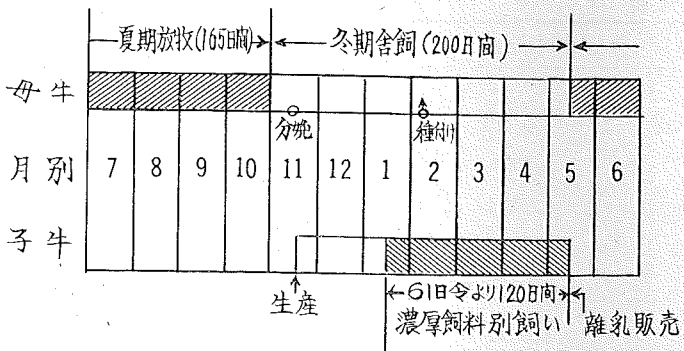
一般に和牛の生産地は比較的草地の多い高冷地が多く、これらの地方の大部分は春から秋にかけて放牧し、寒い冬の間は家につれて帰り舎飼いをする。舎飼いは、牛が飼い主からだのすべてをまかせ、分娩したり、子牛の哺育をしたり、肥育の仕上げや栄養の回復ができる。

それにもまして、身近に牛と人が接触するために愛情が生れ、お互いの親和ができるのである。和牛のいわゆる名産地では、この愛情と親和が中心となつてよい牛をつくり上げるのである。また、農業経営に必要なきゅう肥も、この舎

放牧と舎飼いの関連性

飼いの期間に生産できるなどの利点がある。以下、放牧と舎飼いに、細部について長所を説明する。

左図により、五月中旬から十月末までの一六五日間は夏期放牧、十一月初旬から五月中旬の二〇〇日間は冬期舎飼いで、(放牧と舎飼いの関係)



とする。母牛の種付けを二月上旬までにすると、分娩は十二月中旬となる。

種付け、分娩がどちらも舎飼いになるようにすることは放牧中における自由交尾の危険からこれをまもり、また、分娩前後の休養と子牛の哺育ができるなど、飼養管理のうえから都合である。したがって種付けを二月ごろ行うのがよい。

子牛は一八〇日令まで親につけて哺育し、うち六〇日令ころから二〇〇間は濃厚飼料の別飼いとす。一八〇日令で売却するため、母牛は子牛を離れたところで放牧されることになる。また放牧を終わって舎飼いにはいったところで分身するようになる。分娩前後の三ヶ月は濃厚飼料の増し飼いをしたが、他の期間は粗飼料のみ与えるものとする。

放牧は発育がよく

性質もおとなしい

幼令期の子牛は骨格をつくり、十分な発育が必要である。放牧すれば草の刈り取り給与するときよりも、自分の身にある栄養価の高い草の部分、自由にしかも十分に食べることが出来る。草のなかに含まれている成分のなかで、タンパク質、炭水化物のほかに、とくに子牛の骨格をつくり、発育に必要なカルシウム、ビタミン類その他数十種類の無機物が、牛のからだに必要な割合で十分に含



二 乳 価 交 渉 の 経 過 二

(前月号よりつづき)

四月以降乳価交渉経過

四一・八・一一 七月分暫定乳価七五円について、会長副会長によりメーカー側に申し入れたが、メーカー側は了承せず八月十三日に回答願うことに決定した。

四一・八・一三 七月分暫定乳価七五円について、会長、副会長によりメーカー側と折衝したが、現時点においては了承せず、具酪としては、時間はかかるとしても一円追加頂けるとして立替え払いを行い、生産者には七五円を支払うことにした。

四一・八・一五 四月以降用途別価格について八月六日本会申し入れ価格について、会長、副会長により明治乳業と個別折衝を行なったが内容については別記のとおりである。

四一・八・一六 実行委員会を開き、今後の乳価交渉を会長、副会長、坂本、砂場、黒瀬(組合長)の八名を交渉委員とし、今後更に強力に折衝に当る。

四一・八・一六 四月以降用途別価格について、交渉委員により雪印乳業、東洋乳業と折衝したが、内容については別記のとおりである。

四一・八・一七 四月以降用途別価格について、交渉委員によりオハヨー、国分と折衝したが、内容については別記のとおりである。

四一・八・二〇 四月以降用途別価格について、交渉委員により明治乳業と折衝したが、内容については別記のとおりである。

四一・八・二二 四月以降用途別価格について、交渉委員により雪印乳業と折衝、内容については別記のとおり。

四一・八・二四 昭和四十一年八月十五日以降、各メーカーとの個別折衝は左記のとおりである。

まれている。また、日光の紫外線の吸収や放牧中の自由な運動が、筋肉や骨の発育にいい役割だつたのである。

放牧すれば、外部からのいろいろな感作、たとえば雷、風雨、音響、地物など、牛をとりまく周囲の状態に慣れ、また友だちができるなどから性質がおとなしくなり、ものおじしないようになる。繊維に富んだ青草を腹いっぱい食べ、自由に運動するから、腹がタレ腹でなく、適当にしまった状態で容積が大きくなり、消化器管が発達するため、飼料をよく消化吸収し利用するようになる。このように、放牧を十分にした牛は、飼料の利用性がよくなるから、肉牛として飼育する場合よく食べてよく太るし、また、子とりの場合にも、発情や種付けが順調で、繁殖率がよくなるものである。

飼料代が節約できる

放牧期間中は、妊娠牛および子牛などの特別な牛を除いては、濃厚飼料を与えなくても、草だけで十分健康と栄養の維持ができるものである。しかし野草は一般に栄養価が少いので、改良された優良草地への放牧が必要で、今後の経営改善としては優良草地の造成をとくに検討する必要がある。

和牛の場合、草地造成に、多くの投資

第1表 生産収量

区別	項目	ルの量 ア 当 収	全 体 の 被 度		
			イタリ ア ン	オー チャ ード	クロー バ ー
ク ロ レ ー ト 区		242Kg	99%	50%	クローバ ー 10%
火 入 れ 区		237	99%	30%	クローバ ー 10%
重 放 牧 区		226	99%	30%	クローバ ー 20%

第2表 造成費

項目	区名		
	ク ロ レ ー ト 区	火 入 れ 区	重 放 牧 区
労 務 費	1,395円	1,373円	488円
肥 料 代	1,950	1,950	1,950
種 子 代	1,540	1,540	1,540
ク ロ レ ー ト ソ ー ダ	1,510	—	—
合 計	6,395	4,863	3,978

をすることは不経済である。当該農場では昭和四十年で大型機械導入が困難で、しかも従来未利用であった急傾斜野草地(三十五度内外)を、簡易に草生改良するため、次の三区をもうけて試験した結果、次のような成績を収めた。

○クローレト区 野草を刈り払いし、ク

ローレトソーダ散布後火入れして、無耕起のまま牧草をばらまきする。

○火入れ区 野草を刈り払いし、火入れ後無耕起のまま牧草をばらまきする。

○重放牧区 和牛を重放牧して、締耕地に牧草をばらまきする。

このような方法でやった場合の生産収量、造成費は第1、2表のとおりで機械開墾による造成費一アール当り二万円前後に比べ、四千円ないし六千円で三ないし四分の一の少額の経費ですむのである。

このような急傾斜地を簡易な方法で改良した草地(和牛を放牧すれば、十分にその目的が達成できるのである。当該農場では昭和四十一年度において、前記のべた方法で行った簡易造成草地二・五ヘクタールに十頭の若令肥育も牛を輪換式放牧によって放牧試験を行ない、その成果を試験中である。三百三十日で仕上げすが、そのうち二百日程度を昼夜連続放牧し、そして休けい場として、簡易な開放牛舎を自作で設置している。

牛は一日一頭当り成牛四〇キロ、子牛二〇キロ程度の草を食べるものである。放牧に必要な面積は放牧の方法と草生によって異なるが、半年放牧するとして牛一頭単位野草地で一・五ヘクタール、前述のような簡易造成草地(半牧草地)では〇・五ないし〇・六ヘクタール、全牧草地だと〇・三ないし〇・四ヘクタール程度が必要で、子牛は成牛の五、六〇パーセントぐらいが必要となる。この面積は前記野草地のほかは、三日間おきに輪換放牧した場合である。このようにして、放牧頭数、草地の必要面積、放牧日数などを決めるのである。

“ 酪農・養鶏機ならおまかせ下さい ”

農業機械ならなんでも揃う店

岡山市柳町一丁目一の一七

小六農機株式会社

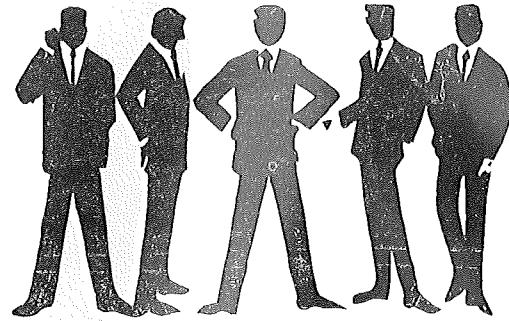
TEL岡山②0307(代) 岡山市外専用 110

営業所 高梁・金川・児島

洗練された都会センスの高級紳士服

舶来品と各種有名メーカー品取扱い

(岡山県畜産会推奨)



東洋紡績 KK }
御幸毛織 KK } 各社総代理店
野村産業 KK }

株式会社 鈴木物産

岡山市富町1丁目1の4 TEL 52-2391

(本誌の)予約(申込)要領

誌代 一部 五十円 (送料共)
年間予約約六百元 (送料共)
但し一部講入の場合は増頁号の誌代をその都度の価格とし、年間予約者は増頁特集号の分も一部五十円のサービス価格とす。

集団申込の特典

十部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十五円にします。百部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十円に割引きます。但しこの場合は一括購読ですから個人別発送は致しません。

申込方法

同封の振替用紙に代金を添え住所氏名明記の上申込んで下さい。集団申込は代表者の名で何人分かを明記、誌代合計金額を払込んで下さい。但し申込みは前金を建前としております。

申込先

(岡山市桑田町一丁目二番地)
社団法人岡山県畜産会管理普及課
(電話)岡山②18575番
(口座番号)岡山八五七五番

編集室より

山の木々もようやく色づき、日一日と秋も深まってきた。本年は豊作が予想され史上第二ともいわれている。期待の中で北から南に向って収穫が行われている。農家はこの米に最大の魅力がある。ということは岡山地方は幸い台風被害も殆んどなく安定した作物であり、また農家にとっては食糧生産の誇りもあるからである。

最近農村は急激な変化がみられている交通網の(幹線道路)の発達、工場の農村進出、兼業化の増加、農村の電化と機械化(テレビ、自動車、トラクター等)これは農村の近代化といえるし革命ともいえる。また若夫婦が独立した個室(離れ家)をもつようになっている。このような新しい生活の中にまだまだ古い習慣が残されており、農業の非近代的なもの(例)がチグハグにはさまっているといえる。農業が高い生産性をもち、人間関係(例)えば老人と若人)の古きもなくなり、内外共に大きく、発展することを願うものである。

岡山畜産便り (十一月号)

第十七巻 第十号

(通巻第百七十二号)

昭和四十一年十一月一日 発行

発行人 惣津 律士

編集人 花尾 省治

発行所 岡山市桑田町一丁目二番地

岡山県畜産会

電話岡山②八五七五番

振替 岡山八五七五番

印刷所 岡山市駅前町

二丁目五番二二三号

西尾総合印刷株式会社

定価 一部五十円 (送料共)

別記

乳価交渉経過報告

昭和四十一年八月十五日以降、各メーカーとの個別折衝は左記のとおりである。

◎明治乳業

日時 昭和四十一年八月十五日 午前
一〇時五〇分

場所 農業会館 四階会議室
出席者 大沢、宮(以下メーカー)
会長、副会長(以下委員)

永井係長(県)

交渉の内容 五月に提示された価格(前月号表)を提示されたが、本会としては了承できず。

明治としては、中央待ちしていたのでは決定が長びくので、岡山県方式が出されるよう本社へも行き、八月申までには何とか妥結に到るよう精力的に努力することを約束すると同時に、本会申入価格についても一案として研究することを言明した。

◎雪印乳業

日時 昭和四十一年八月十六日 午後
一時

場所 農業会館 五階六号会議室
出席者 山根、福田、細見(メーカー)
会長、副会長、砂場(委員)

永井係長(県)

交渉の内容 五月の第二次提示価格(前月号表)を提示されたが、本会としては了承できず、雪印としても更に本社へ交渉を続けて努力する。また、交渉の方法として、本年度三月まで七五円をおして支払っていただけるかどうかを申入れ、雪印としても研究することを了承した。

◎東洋乳業

日時 昭和四十一年八月十六日 午後
四時

場所 会館 五階六号会議室
出席者 重富、長野(メーカー)
会長、副会長、砂場(委員)

永井係長(県)

交渉の内容 五月の第二次提示価格(前月号表)を提示されたが、本会としては了承できない。更に交渉を継続。

◎オハヨー、国分

日時 昭和四十一年八月十七日 午前
一〇時三〇分

場所 農業会館 四階会議室
出席者 大宮、水国(メーカー)
会長、副会長、砂場(委員)

交渉の内容 両社共、価格については提示はなく、更に交渉を継続していく。また、交渉の方法として、本年度三月まで七五円をおして支払っていただけるかどうかを申入れた。

◎明治乳業

日時 昭和四十一年八月二十日 午前
一時

場所 農業会館 四階会議室
出席者 大沢、宮(メーカー)
惣津、流郷、難波、坂本(委員)

森技師(県)

交渉の内容 岡山県なりの考え方として暫定混合乳価ということで、年間七五円をおしていただくことを研究していただくことを申入れた。

◎雪印乳業

日時 昭和四十一年八月二十四日 午後
二時

場所 農業会館 五階会議室
出席者 山根、細見、福田(メーカー)
惣津、流郷、難波、坂本(委員)

永井係長(県)

交渉の内容 混合暫定乳価として年間七五円(集送乳費、クーラー処理費は別)支払っていただくということで本社に折衝し、獲得に努力していただく。メーカーも獲得に努力することを了承した。

養鶏経営指導指標

価格200円 送料45円

すぐれた指針の数値です

養豚経営指導指標

価格150円 送料45円

近代的な養豚経営の目安として